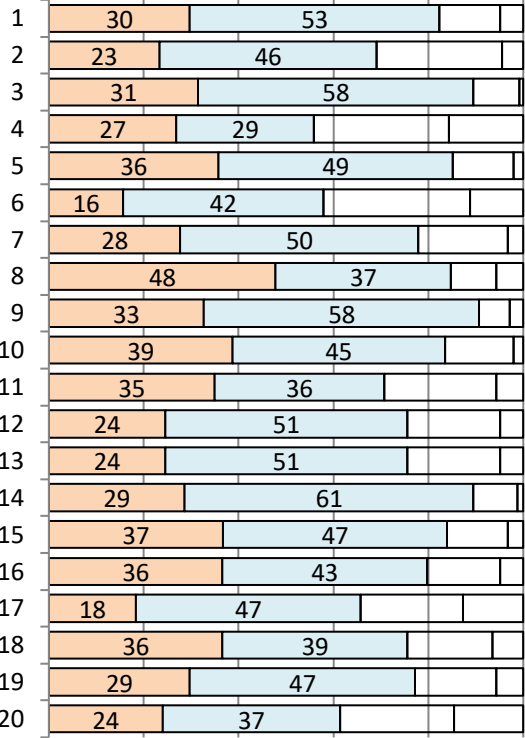


○目指す子ども像(ブロック共通) 夢の実現に向けて、共に楽しく学び、たくましく伸びていく子の育成
重点目標(児童生徒の共通する課題より) (1)コミュニケーション能力を育成するための“言語活動の充実”～聞き取る・読み取る・伝え合う～ (2)自己有用感や自己肯定感を獲得させることにより、自尊感情を高める。
○洛西中学校めざす生徒像 ・「学ぶ楽しさ」と「わかる喜び」を実感し、夢や希望に向けて主体的に学習に取り組む生徒〈知〉 ・自分や仲間の良さや違いを認め尊重し、支え高め合える生徒〈徳〉 ・命を大切にし、健康で安全な生活を心がけ、明るく活き活きと生活できる生徒〈体〉

※単位は%

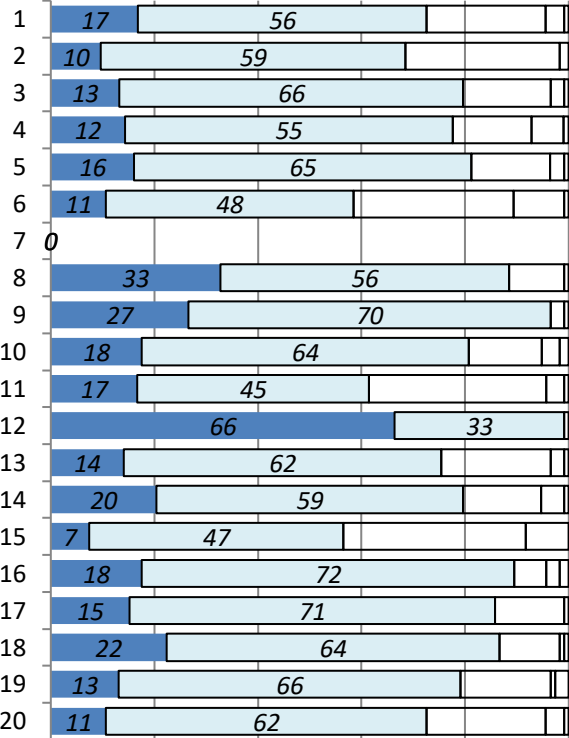
質問項目	
確かな学力	① 学校の勉強はわかりますか
	② 自分の意見や考えを話すことができていますか
	③ 人の意見や考えをしっかりと聞くことができていますか
	④ 進んで本を読むことができていますか
	⑤ 毎日、忘れ物をせずに、学習の準備をすることができていますか
	⑥ 毎日、家庭学習をすることができていますか
	⑦ 授業や学校生活の中でがんばったことを先生はほめてくれますか
豊かな心・健やかな体	⑧ 学校に楽しく通うことができていますか
	⑨ 学校では先生や友だちから大切にされていると思いますか
	⑩ 地域の人、先生たち、友だちに進んであいさつができていますか
	⑪ 規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはん)ができていますか
	⑫ 自分にはよいところがあると思いますか
	⑬ 難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか
	⑭ 学校のきまりや約束を守ることができていますか
学校・家庭・地域との連携	⑮ 自分から進んでそうじや係活動, 委員の人は委員会活動ができていますか
	⑯ 学校からのプリントをお家の人に見せていますか
	⑰ わからないことや困っていることを先生に相談することができていますか
	⑱ お家の人に学校でのできごとを話していますか
	⑲ お家の人や地域の人からほめられることがありますか
	⑳ 地域の人との交流(洛フェスや学区民運動会等の行事)を楽しみにしていますか

生徒



そう思う 大体そう思う あまり 思わな

保護者・学校運営協議会



そう思う 大体そう思う あまり 思わない 空

「確かな学力」 (アンケート番号①～⑦)

中1ジョイントプログラムや2年生、3年生の学習確認プログラムの結果については、全市平均と比べ厳しい状況でした。3年生の全国学力・学習状況調査については、教科によっては全国平均より良いものもありましたが、総じて低い結果でした。

① 基礎的・基本的な知識・技能の定着

全国調査のアンケートでは、家庭学習に取り組めていないことがうかがえます。「家庭学習を全くしない」「家庭学習は30分以下」と答えた生徒は全国平均の2倍でした。一方、「家庭学習を3時間以上する」と答えた生徒の割合は全国を若干上回り、勉強に前向きに取り組む生徒とそうでない生徒とに別れる傾向が見られます。また、平日の読書時間あるいは読書が好きと答えた生徒は京都市の平均よりは多く、朝読書の取り組みの効果と思われます。ただ、読書についても読む生徒と読まない生徒に分かれる傾向があります。放課後学習会や土曜スクールなど、学習できる機会を提供していますが、登録率も伸び悩みの状況です。今後も更に学習意欲を高めることに力点を置き、指導を継続していきたいと考えています。また基礎基本の訓練と共に、他者との関わりの中で、より深い学びに向かう授業の展開を創造する必要があると考えます。

② 表現力の向上

アンケート②の項目で自分の意見や考えを「伝える」ことについては、課題があると捉えています。また、アンケート④読書、⑥家庭学習の項目の結果も気になることです。じっくりと一人で考えることを基本として、仲間とのつながりの中で自らの考えを深め、しっかりと定着させる場面を意図的に作る必要がある。小中が連携して改善のための取組を進めたいと考えています。

「豊かな心・健やかな体」 (アンケート番号⑧～⑬)

アンケートの結果より、概ね肯定的な意見ですが、項目毎に見ると、課題が見られる部分があります。

① 基本的生活習慣の確立

アンケート⑪「規則正しい生活」について、約3割の生徒が「できていない」と答えていますが、全国調査では3年生の9割が朝食をとり毎日同じ時刻に起きていると回答しています。一方、始業時間から大幅に遅れて登校する生徒が少なくなく、生徒はもちろん家庭への働きかけの継続が必要だと感じています。

② 豊かな心の育成

アンケート⑧「学校は楽しい」、⑨「学校で先生や友だちから大切にされている」に肯定的な生徒は8割以上います。さらに⑪「失敗を恐れず挑戦する」に肯定的な生徒は75%、また全国調査でも「人の役に立つ人間になりたいと思う」の問いにも95%の生徒が肯定的に回答しています。今年度、多くの生徒たちは落ち着いた学校生活を送っています。一方、アンケート⑫「自分のよいところがある」については低い結果で、3年生全国調査でも「どちらかといえば当てはまらない」と答えた生徒が目立ちました。生徒の心の内を揺さぶり、目標に向かって努力し続けたり、仲間と協力してやり遂げる成就感を味あわせることで、自尊感情を高め、将来の自らの夢に向かって歩き続ける生徒の育成を目指したいと考えています。

「学校・家庭・地域との連携」 (アンケート番号⑭～⑲)

思春期の真只中にある生徒と学校・家庭・地域の大人との繋がりをより確かなものとする中で、生徒たちの健やかな育みを伸長することが大切です。

① 開かれた学校づくり

アンケート⑱「地域交流」について、大人と比べて生徒の意識は毎回低い状況があります。全国調査でも「今住んでいる地域の行事に参加していますか」との質問があり、本校の3年生で肯定的な回答をしたのは全国平均より15ポイントほど下回っています。生徒自身が社会と繋がり、社会に貢献する大人となっていくためには、生徒自身が身の回りの大人たちに支えられている、大人たちと繋がっている、関わりがあるといった実感を得られることが大切ではないかと考えています。

② 子どもの良いところを見つけ、ほめること

アンケート⑭「プリントを家の人に見せている」、⑯「学校のことを話している」については、子どもたちと保護者の方の意識の隔たりが大きいところです。アンケート⑮「先生に相談」の結果はさほど悪くありませんが、全国調査では、「先生はほめてくれる」「わかるまで教えてくれる」の回答は全国平均よりかなり低い状況です。子どもたちのことを認めほめることで、子どもたちの自信へつなげることができるようはたらきかけていくこと、普段から子どもたちとの関わりをきめ細やかなものにしていくことが必要だと考えま